

# 令和4年度 「好きを仕事に」 記録集

一般社団法人播磨ひとづくりコンソーシアム

第1回 令和4年7月24日(日) 16:00~17:30 Zoom

1 テーマ 『伝える』

2 講師 二階堂 薫氏 コピーライター

石堂 大輔氏 市議会議員

原 豊氏 姫路ケーブルテレビの放送部リーダー

吉田 賢司氏 白鷺印刷株式会社代表取締役

3 参加校 姫路市立山陽中学校、姫路市立東中学校、姫路市立林田中学校 計5名

4 記録 テレビの時代からインターネットの時代に移り変わり、情報入手の方法が変わっていく中、「伝える」をテーマに、4人のプロフェッショナルに5人の中学生がお話をお聞きしました。



Q1 生徒会から、いろいろなメッセージを全校生に伝えることが難しい。仕事の中では、どのような工夫をして伝えていますか？

伝えるまでには3つの段階があります。

## ①伝えるまでの時間

日頃から周囲の人たちに伝わっている自分の人柄が、相手の聞こうとする気持ちにつながっています。率先垂範という言葉があるように、言葉だけで伝えることは不可能で、自分の姿勢が伴っていることを大切にしています。

伝えるのは、相手があって初めて成り立ちます。ちょっと残念なことです。人は「見ない」「聞かない」ものだということを前提に、どう伝えるかを考えるのが広告などの常識です。

人は自分の興味があることや、得すること、共感するには耳を傾けます。楽しい、気になるなど、感情が動いた時に初めて気に留めるという傾向があります。

## ②伝える時間（話、ポスター）

いきなり多くの人に伝えようと思っても、それは難しいです。まずは身近な人に伝え、そこから粘り強く徐々に広げていくように心がけています。ポスターなどの掲示物は、それだけで伝わるものではなく、日頃から言っていることに気づいてもらったり、再認識してもらうためのきっかけに過ぎないことを知っておくといいです。

見てほしい人が多く集まる場所に掲示する、デザインに工夫を施すなどの努力はもちろん、不可欠なことです。

広告やインタビューの場合は、伝えたい人の伝えたいことをきちんと理解して受け取ることが何より大切です。チームとして、その内容を様々な視点から検証することも大切です。

## ③伝えた後の時間

ここからの活動が、伝えたことが定着するかどうかの決め手になります。信念をもって継続することです。学生時代は、生徒会として全員で粘り強く、繰り返し伝え続けました。

Q2 外国の方に伝える時は、どのようなことを心がけていますか？

国によって考え方や価値観などが違います。同じ言葉でも受け取り方が違うこともたくさんあります。だから、まずその国のことに興味を持って、知ることです。歴史や風土、今の国情などを調べて、自分たちと同じところにも、違うところにも敬意をもって伝えようと心がけています。

**Q 3 弁論など、話をするような機会に気をつけていることを聞かせて下さい。**

借りてきた知識や一般論に頼るのではなく、「自分の姿」が見えることを大切にしています。自分が一番伝えたいことは何かを、自分で何回も確認してから話すと伝わりやすいと感じます。全員に話しかけるよりも、どんな人に伝えたいかを明確にさせておくことも大切なことです。

伝える時は、相手が多くても少なくても、話始めの1～2分がポイントです。

**Q 4 読書感想文など、文章で伝える時はどうですか？** (一部、学生の意見も入っています)

基本的なことは話す時と同じで、「自分の姿」が見える文章を書くことです。そして、読む気になってもらうために工夫していることは、書き出しを大切に、自分の言葉で表現する。読書感想文などは、その本を選んだ背景を伝えたり、タイトルを工夫するなどの工夫もしています。

**Q 5 講師に質問する機会があったのですが、聞きたいことをうまく伝えられず、聞きたかったことへの答えがもらえず残念でした。どうしたらうまく質問できますか？**

その時、聞きたいことの内容を自分自身が明確に把握していましたか。伝える時には、言いたいことや聞きたいことの内容を、シンプルに表現できるまで整理するようにしています。図に描いて整理する方法も役に立っています。

**Q 6 自分には将来なりたい職業があるのですが、夢に向かって進んでいくとき、どんなことを大切にしていましたか？**

以下①～③にみられるように、夢に向かう道はたくさんあります。そこで大切なことは、その夢のひとつ奥、「その仕事をめざす理由」を考えることです。自分はその仕事で、誰に、どんなことを伝えたいのか。それがはっきりすれば、学ぶ意味が見えてきます。

講師の方々にご自身のことを振り返っていただきました。

① 中学生の時は、とにかく好きなこと(絵を描く、ものをつくる)に夢中になっていました。

高校・大学もそれを軸に選び、熱心に学びました。今の立場はその学びを直接活かすことは少ないですが、その時に真剣に学んだ知識や経験が、仕事の基礎となり、発想の源になっています。

② 今の仕事は中学3年生の時に目標にした仕事です。その時はまだ、「どうすればいいか」という具体的なことはわからなかったのですが、身近な目標に全力を注いでいました。そうしていくうちに、さらに目標への思いは強くなっていき、徐々に自分の活動の枠を広げていきました。

もっと広く社会を知ることが大切だと思い、一旦は別の仕事に就きましたが、「笑顔を増やしたい」という目標を実現するために現在の仕事に取り組んでいます。

③ 学生時代は、好きな教科はありましたが、特になりたい仕事もなく就職しました。しかし、そこで出会った仕事の中から自分の可能性を感じて、自分にとって面白いことが明確になり、今の仕事に就いています。振り返ってみると、一步踏み出す時に学生時代の好きな教科の影響を受けていたかもしれないなあと感じます。